Ⅱ　教育の内容・計画

1　学習総括表

区分	科　　目	講師	単位	時間	時間割			備　考
					前・後期	曜日	時限	
講義科目（共通専門）	鳥獣被害対策	非常勤講師	2	30	前期	月	1時限	野菜コース等講義計画と同じ
	六次産業化論	非常勤講師	2	30	前期	月	2時限	野菜コース等講義計画と同じ
	循環型農業論	専任指導職員	2	30	前期	火	1時限	野菜コース等講義計画と同じ
	キャリアデザインⅡ	専任指導職員 非常勤講師	2	30	前期	火	2時限	野菜コース等講義計画と同じ
	作物学	専任指導職員	2	30	前期	水	1時限	野菜コース等講義計画と同じ
	土壌肥料学	専任指導職員	2	30	後期	月	1時限	野菜コース等講義計画と同じ
	農産物流通論	専任指導職員	2	30	後期	月	2時限	野菜コース等講義計画と同じ
	植物生理学	専任指導職員	2	30	後期	火	1時限	いずれかを選択 野菜コース等講義計画と同じ
	昆虫学	専任講師						
	農薬学	専任指導職員	2	30	後期	火	2時限	野菜コース等講義計画と同じ
	有機農業論	専任指導職員	2	30	後期	水	1時限	野菜コース等講義計画と同じ
	植物病理学	専任講師	2	30	後期	水	2時限	野菜コース等講義計画と同じ
	計 履修は22単位330時間 卒業に必要な単位数は16単位		22	330				
講義科目（コース専門）	経営管理学	専任指導職員	2	30	前期	水	2時限	
	野菜栽培論Ⅰ	専任講師	2	30	前期	木	1時限	野菜コース講義計画と同じ
	果菜栽培学Ⅰ	専任指導職員	2	30	前期	木	2時限	野菜コース講義計画と同じ
	野菜栽培論Ⅱ	専任指導職員	2	30	後期	木	1時限	野菜コース講義計画と同じ
	果菜栽培学Ⅱ	専任指導職員	2	30	後期	木	2時限	野菜コース講義計画と同じ
	計 履修は10単位150時間 卒業に必要な単位数は10単位		10	150				
実験・実習科目（コース専門）	コース実習	専任指導職員	16	480	前・後期	月～木	3・4時限	
	就農準備演習 （野菜専攻）	専任指導職員	8	240	前・後期	金	1～4時限	就農準備演習内で、先進農林家等体験学習の実施も可能
	先進農家研修 （有機農業専攻）	専任指導職員	8	240	前・後期	金	1～4時限	有機農業を実践する農家での研修
	計 履修は24単位720時間 卒業に必要な単位数は24単位		24	720				
全　合　計			56	1,200				

区分	科　　目	講師	単位	時間	時間割			備　考
					前・後期	曜日	時限	
特別選択科目	応用化学Ⅰ	非常勤講師	1	15	前期	―	16:30～18:00	卒業に必要な単位に含めない
	応用化学Ⅱ	非常勤講師	1	15	前・後期	―	16:30～18:00	卒業に必要な単位に含めない
	農業機械論	専任指導職員	4	60	前期	月～金	3・4時限	卒業に必要な単位に含めない

資格取得に関する講義

鳥獣被害対策

狩猟免許（わな猟）

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく資格である。農林業分野の有害鳥獣被害対策として、狩猟免許（わな猟）が有効に活用される。鳥獣被害対策では、鳥獣の捕獲等に関する基礎知識の講義が行われる。

キャリアデザインⅡ

日本農業技術検定２級

日本農業技術検定協会が実施する農業知識や技術の習得水準を客観的に評価する検定試験である。

キャリアデザインⅡでは、農作物の栽培管理等を行う基本レベルの知識・技術を有すると評価される２級の合格を目指し、この資格取得に必要な講義と試験対策を行う。

応用化学Ⅰ

危険物取扱者（乙種４類）

消防法に基づく危険物取扱者試験によって与えられる資格であり、「第４類」に指定されているガソリン、灯油、軽油、重油などの引火性液体の取り扱い等に必要となる資格である。

第４類危険物は、施設園芸における燃料をはじめとして幅広く使用されていることから、就業上も有用な資格である。

応用化学Ⅰの講義において、この資格取得に必要な講義と試験対策を行う。

応用化学Ⅱ

毒物劇物取扱者（一般・農業）

毒物及び劇物取締法に基づく毒物劇物取扱者試験によって与えられる資格で、毒物及び劇物の輸入、製造や販売、またその管理・監督を行うのに必要な資格である。

農薬には毒物劇物を含むことが多く、その取り扱いには毒物劇物の性状などを正しく理解する必要がある。

応用化学Ⅱの講義において、この資格取得に必要な講義と試験対策を行う。

土壌肥料学

土壌医検定３級

一般財団法人日本土壌協会が主催する検定試験で、土づくりに関する基礎的な知識・技術を有し、土づくりアドバイザーとして対応することができる３級の受検に対応可能な講義を行う。

有機農業論

NPO法人日本オーガニック認証協会による有機農産物JAS講習会

所定の講習課程を修了することで認証協会から認定証が発行されるが、これは有機農産物生産にかかるJAS認証取得にあたり、登録必須の生産行程管理者になるために必要なものである。

2 科目別講義計画

科　目	経営管理学	種別		単位数	時間割		
		コース専門	社会人	2	前期	水曜	2時限
担　当	専任指導職員						
目　標	農業経営をするための手法を学ぶ。						
概　要	自分の経営について、営農計画の作成を行いながら具体的に考える。 農家経営について要となる複式簿記と青色申告について学ぶ。						
テキスト	「よくわかる農家の青色申告」（全国農業会議所） 「改訂9版はじめてのパソコン農業簿記」都道府県農業会議・全国農業会議所編 （全国農業会議所）						
参考図書							
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	自分の経営について具体的に考えていきます。						

科目内容	講義名	講義内容
	営農計画	(1)農業経営計画の意義 (2)作成のポイント (3)自分の経営を考える (4)営農計画の作成
	複式簿記	(1)複式簿記の基本 (2)貸借対照表と損益計算書
	青色申告	(1)青色申告の概要 (2)青色申告をするための手続き

<table>
<tr><td rowspan="2">科　　目</td><td rowspan="2">コース実習</td><td colspan="2">種別</td><td>単位数</td><td colspan="3">時間割</td></tr>
<tr><td>コース専門</td><td>社会人</td><td>15</td><td>前・後期</td><td>月～木</td><td>3・4時限</td></tr>
<tr><td>担　　当</td><td colspan="7">専任指導職員</td></tr>
<tr><td>目　　標</td><td colspan="7">作物栽培のための基本的な技術を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>概　　要</td><td colspan="7">野菜専攻は野菜コースと一緒に実習を行う。
有機農業専攻は社会人コース有機ほ場で実習を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">学業成績評価基準により評価する。</td></tr>
<tr><td>メッセージ</td><td colspan="7">作物栽培の技術習得のための基本的な実習です。よく理解し、自らの経営に役立ててください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目内容</td><td>実習内容</td><td colspan="3">修得する知識・技術</td><td colspan="2">関連講義</td></tr>
<tr><td>（野菜専攻）
野菜栽培実習

※野菜コースの実習に準じる</td><td colspan="3">(1)野菜栽培に関する技術
(2)GAP手法の導入方法
(3)スマート農業の活用
(4)マーケティング・販売演習</td><td colspan="2">野菜栽培論Ⅰ
果菜栽培学Ⅰ
野菜栽培論Ⅱ
果菜栽培学Ⅱ
農産物流通論</td></tr>
<tr><td>（有機農業専攻）
有機栽培実習

果菜類の栽培
（トマト、ナス、キュウリ等）
葉茎菜類の栽培
（ホウレンソウ、コマツナ、キャベツ、ブロッコリー、ネギ、タマネギ等）

根菜類の栽培
（ダイコン、ニンジン、ビーツ等）
マメ類、イモ類の栽培
（エダマメ、サトイモ、バレイショ等）

堆肥とボカシ肥料づくり
マーケティング・販売演習
有機農産物の加工
スマート農業機械の活用
有機JAS認証の取得・維持
先進農家視察</td><td colspan="3">(1)作型と品種選定
(2)播種および育苗管理
(3)定植と間引き方法
(4)定植後の管理
(5)収穫、出荷調製
(6)病害虫の見分け方とIPM技術
(7)有機専用資材の選定
(8)コンパニオンプランツと天敵利用
(9)微生物の培養と利用
(10)太陽熱養生と土作り
(11)緑肥の作付けとすき込み</td><td colspan="2">有機農業論
循環型農業論
野菜栽培論Ⅰ
果菜栽培学Ⅰ
野菜栽培論Ⅱ
果菜栽培学Ⅱ
六次産業化論
農産物流通論</td></tr>
</table>

科　　目	就農準備演習	種別		単位数	時間割		
		コース専門	野菜専攻	8	前・後期	金曜	1～4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	就農に向けた準備を行う。						
概　　要	1 自分の目指す就農のあり方を考える。 2 就農に必要な基礎的、実用的知識を身につける。 3 情報収集の手法を学ぶ。 4 農業関係機関と就農相談をする。						
テキスト							
参考図書							
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	就農をめざす動機や、農業に期待する内容は各自異なります。自分が目指す農業の姿を形にするため、何が必要かを見いだし、将来に向けて準備をしてください。						

科目内容	実習内容	修得する知識・技術	関連講義
	就農の基礎知識	(1)就農までの課題 (2)新規就農のポイント	キャリアデザインⅡ 経営管理学
	就農のための情報収集	(1)就農の事例調査 (2)農産物流通 (3)地域や関連団体との連携 (4)就農・営農情報の収集と活用	
	関係機関との就農相談	(1)農業関係の制度の概要 (2)農業関係機関の概要 (3)就農相談の実施	
	先進農家・農業関連施設視察・研修	(1)先進農家の経営視察・研修 (2)農業関連施設視察	

科　　目	先進農家研修	種別		単位数	時間割		
		コース専門	有機農業専攻	8	前・後期	金曜	1～4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	有機農業を実践する農家で研修し、栽培方法、農産加工技術、販路確保などを総合的に学び、就農計画を作成する。						
概　　要	1 自分の目指す品目を栽培する有機農業者とのマッチング。 2 就農に必要な実用的知識を身につける。 3 研修先農家や農業事務所と相談しながら就農計画を作成する。 4 就農計画実現のための準備を行う。						
テキスト							
参考図書							
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	有機農業をめざす動機や、有機農業に期待する内容は各自異なります。自分が目指す有機農業を実現するために、研修先農家やその仲間との信頼関係を構築し、将来に向けて準備をしてください。						

科目内容	実習内容	修得する知識・技術	関連講義
	研修 （就農の実用知識習得）	⑴実践による栽培技術習得 ⑵出荷・流通・販売について ⑶地域や関係団体との連携 ⑷農作業機の安全な操作	農業機械論
	就農の基礎知識	⑴就農までの課題 ⑵新規就農のポイント	キャリアデザインⅡ
	就農のための情報収集	⑴就農の事例調査 ⑵農産物流通 ⑶就農・営農情報の収集と活用	
	関係機関との就農相談	⑴農業関係の制度の概要 ⑵農業関連機関の概要 ⑶就農相談の実施	